

別紙資料 【「いわ100」活用による読書指導】

＜盛岡市立見前南中学校 長根いずみ教諭による中学校1年国語科授業実践例＞

- 1 単元名 南中1学年「どくしょ甲子園」開催！
 ～ その本を読みたくなるような「読書ボード」を作ろう ～
 教材名 「少年の日の思い出」(光村図書 中学校国語1年)
 「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」
 第2回どくしょ甲子園 受賞作(<http://www.asahi.com/shimbun/dokusyo/koushien/>)

2 単元の目標

おすすめの本を「読書ボード」にまとめることを通して、文章の構成や展開、表現の特徴、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、それについて自分の考えをもつことができる。

3 単元の指導計画(全10時間)

事前 「どくしょ甲子園」の入賞作品や紹介記事を掲示し、学習に対する興味関心を高める。

第一次 単元の見通しをもつ。(2時間)

- グループ読書会を受けて、おすすめの本を「読書ボード」にまとめる見通しをもつ。(1)
- モデルの「読書ボード」について、それぞれの工夫をグループで話し合い、自分たちほどのモデルのパターンでまとめたかを決める。(1)

第二次 グループ読書会を受けて、「少年の日の思い出」をおすすめする「読書ボード」をグループで完成させ、交流する。(5時間)

- 「少年の日の思い出」を読み、グループ読書会の分担をする。(思い出し係、質問係、選び出し係、イラスト係)(1)
- 「少年の日の思い出」のグループ読書会を行い、全体でその内容を発表し合う。(1)
- グループ発表会を受けて、モデルを参考に「少年の日の思い出」をおすすめする「読書ボード」の内容を、本をおすすめするキャッチコピー、印象的な本文の引用、本の魅力(300～400字程度)、イラストを用いて考える。(1)
- 「少年の日の思い出」をおすすめする「読書ボード」をグループで完成させる。(1)
- 完成させた「読書ボード」を交流し合い、最優秀作品と優秀作品を選ぶ。(1)

課外(冬休み) 自分のおすすめの本を「読書ボード」にまとめる。

- 「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」から、4人グループでおすすめする本を1冊選ぶ。

○ 第二次で用いた「読書ボード」作成シートを用いて、各自「読書ボード」の原案を作る。

第三次 グループで「読書ボード」を完成させ、交流し合うとともに、学習を振り返る。(3時間)

- 各自の原案をもとに、「いわ100」からおすすめする本を「読書ボード」にまとめる。(1)
- グループで完成させた「読書ボード」を全体で紹介し合う。(1)
- 学級で、最優秀作品と優秀作品を選び、理由や工夫について意見交流する。単元の学習を振り返る。(1)

事後 学年で入賞作品を決める。図書館や廊下に掲示して作品のよさを学び合うとともに、読書に対する興味関心を高める。

＜「いわ100」から選んだ本の「読書ボード」 左「ぼくらの七日間戦争」右「人間失格」＞

